



啓発イベント
障害者週間街頭キャンペーンの様子

ひとつひとつの想いを込めて

十二月一日(土)午前十時から北九州市のJR小倉駅の南北ベデストリアンデッキで、「平成三十年度障害のある人への理解を深める啓発イベント(障害者週間)」。毎年十二月三日から九日まで(街頭キャンペーン(ピラ配り)が行われ、「さわやか」から山田・高原・貞谷が参加しました。

『障害者週間』とは、障害のある人への関心と理解を深め、障害のある人があらゆる分野の活動に参加することを促進するために、『障害者基本法』によって設けられています。

今年も『障害のある人もない人もみんなできに生きる北九州市をつくらう!』を合言葉に多くの方が集まりました。

街頭キャンペーンは、北九州市障害福祉団体連絡協議会(以下障団連)の啓発事業の一環で、毎年行われています。

北九州市障害者差別

解消条例の啓発も併せて

今年も、障害者週間と昨年十二月にスタートした障害を理由とする差別をなくし誰もが共に生きる北九州市づくりに関する条例(通称:障害者差別解消条例)の啓発も併せて行われました。

当日は、北橋健治北九州市長をはじめ、井上秀作北九州市議会議員と市議会議長、障害者差別解消地域支援協議会委員、障害福祉課の職員の方々等四〇名と障団連

啓発イベント障害者週間

街頭キャンペーンの準備をする

十一月二十九日(木)午前十時からウエルとばた六階六A会議室で、北九州市障害福祉団体連絡協議会(障団連)の啓発部会が開催されました。

今回は、障団連の啓発事業の一環で、毎年行われている障害者週間の街頭啓発キャンペーンの準備を行いました。参加者は、障団連に加盟



の加盟団体が二十四団体一、二名の総勢一五二名が参加しました。

初めに、障団連の森聖子氏より開会式の挨拶がありました。

続いて、主催者である障団連の林芳江会長は、「本日は、一つ一つの想いを込めて、啓発チラシを配りましょう」と挨拶がありました。

同じく主催者である北橋健治北九州市長は、「本市は、平成二十八年四月に施行された『障害者差別解消法』の趣旨を踏まえ、皆様から

の貴重なご意見をいただき、障害を理由とする差別の解消に向けて主体的に取り組み、共生社会の実現を目指すことを目標とした『障害者差別解消条例』を昨年の十二月に制定しました。

これからも林会長をはじめ、障団連の皆様のお力をお借りしながら、前に進んで参りたいと思います。

本日は一緒に頑張りましょう」と挨拶されました。

また、井上市議会議長の挨拶と市議会議員の方々の紹介がありました。

今年もモモマルくんと一緒に啓発活動

そして、今年も北九州市が人権啓発として取り組んでいる人権の約束事運動「ほ



街頭キャンペーンの準備の様子

その後、休憩を挟み、障団連の啓発部会が行われ、街頭キャンペーン当日の流れおよび注意点についての説明があり、啓発部会は午前十一時十五分に終了しました。

つとハート北九州」のマスケットも応援に駆けつけてくれました。



その後、伊野和子啓発部会長の「ただいまより、啓発チラシ配布開始します」の号令で、障団連が作成した「北九州市障害者差別解消条例」の啓発チラシを貼ったカイロを今後、障害者差別解消法と差別解消条例について市民の方々に広く理解していただけることを願い、配布しました。

最後に、障団連の山田浩美副会長より閉会の挨拶として、「本日は、北橋市長をはじめ、多くの市議会議員、障害者差別解消地域支援協議会の委員、障害福祉課の職員の方々、障団連の会員の皆様、関係団体の皆様のおかげで、無事に啓発チラシを配布することができました。本当にありがとうございました。」と話しました。

啓発イベントは、午前十一時に終了しました。

全国各地で拡大中

風しんの流行に注意しよう！

例年と比較して、風しんの届出数が大幅に増加しています。福岡県においても届出数が増加していることから、注意喚起を促しています。そこで、風しんに

風しんは、発熱や発疹、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性発疹症です。

症状は、不顕性感染（感染しているが、無症状であること）から、重篤な合併症併発まで幅広い感染症です。

また、妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかるると生まれつき心臓に病気がある、耳が聞こえにくい、目が見えにくいなどの障がいのある赤ちゃんが生まれる可能性があります。

風しんウイルスの感染によつて、生まれてくる赤ちゃんにこのような障がいを起こす病気の総称を『先天性風しん症候群』といいます。

このため、特に妊娠中の方は、風しんにかからないように注意することが大切です。



風しんが大流行後

初めて二〇〇〇人超え

国立感染症研究所によると十一月十一日までの一週間に全国の医療機関から報告された新たな風しんの患者は一三九人で、十週連続で一〇〇〇人を超えました。

これにより、これまでの患者は二〇三二人となり、風しんが大流行した平成二十五年のあとの五年間で初めて二〇〇〇を超えました。

全体の七割余りは首都圏の患者ですが、東海・近畿地方や福岡県など各地で患

妊婦さんを守るために

風しんの予防接種をしましょう

妊婦さんを守る観点から、以下の方は任意で風しんの予防接種を受けることをご検討してください。

- ①特に三十代から五十代の男性のうち、明らかに風しんにかかったことがある、風しんの予防接種を受けたことがある又は風しんに対する抗体が陽性であると確認ができていない方以外の方
- ②妊婦さんの夫、子供及びその他の同居家族

先天性風疹症候群とは

免疫のない女性が妊娠初期に風疹に罹患すると、風疹ウイルスが胎児に感染して、出生児に先天性風疹症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがある。風疹のサーベイランスやワクチン接種は、先天性風疹症候群の予防を第一の目的に考えている。

者が増加しています。

都道府県別では、東京都で七一人、千葉県で二九四人、神奈川県で二七五、埼玉県一三八人、愛知県で九十七人、大阪府で八十三人、福岡県で七十人などとなっています。

また、男性の患者が一六〇〇人余りと女性の4.5倍になつていて、男性患者全体の八割を三十代から五十代

③十代後半から四十代の女性（特に妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い者）のうち、明らかに風しんにかかったことがあ



る風しんの予防接種を受けたことがあ

今年も流行!

インフルエンザにご注意を

今年もインフルエンザが、流行してきました。

普通のかぜの多くは、のどの痛み、鼻水、くしゃみや咳などの症状が中心で、全身症状はあまりみられません。インフルエンザはそれらの症状のほかに突然の三十八度以上の発熱や頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身の症状が現れます。

また、気管支炎や肺炎、小児では中耳炎、熱性けいれんや脳症などを併発して、重症化するこ

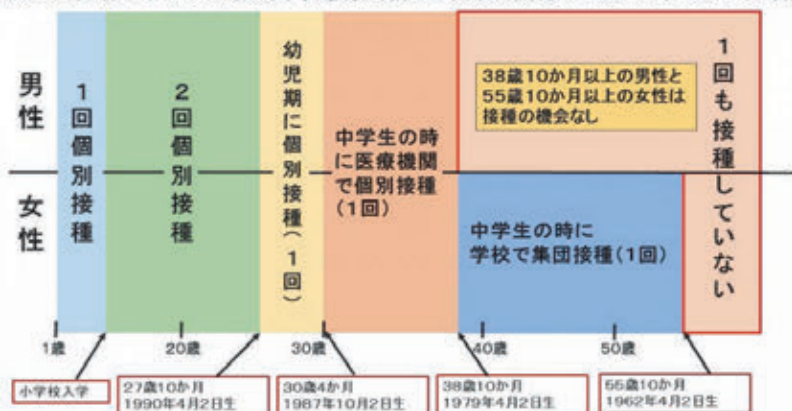


が占めています。

一方、女性は二十代が最も多く、患者は一三〇人以上

風しんの届出の多くは、三十代から五十代の男性です。三十代からは、風しんの抗体価が低い方が二割程度存在することがわかっています。各年代の風しんのワクチン予防接種については、左

風しん含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係(平成30年2月1日時点)



上の図をご覧ください。福岡県では県内(福岡市、北九州市、久留米市、大牟田市を除く)の契約医療機関において風しん抗体検査を無料で実施します。風しんの抗体検査をした

また、福岡市や北九州市、久留米市、大牟田市にお住

まいの方は、各市役所の保健予防課にお問い合わせください。